

資料3-1

No.	頁	見出し	分類	内容	記入者	備考
1	1	はじめに	加筆	市の総合計画にも「地域学校協働活動の推進に向けた検討」が主要事業として取り上げられている	事務局	社会教育委員の会議では、「地域学校協働活動」を見据えて議論を行ってきたことを伝えたいです
2	2	(1) 「地域学校協働活動」を推進する利点	加筆	大人にとっての利点	河野委員	子どもには、地域に愛着を持つ利点、地域には活性化という利点が挙げられているので、さらに大人にとっての利点も加えたい。(学校、教職員にとっての利点はどうか?)
3	2	(1) 「地域学校協働活動」を推進する利点	検討	・「地域の大人」 → 「地域の多様な大人」 ・「たまご=他孫」は、初見の人は意味を理解するのが難しいのではないか ・「地域課題を解決する学習の場」は、初見の人は意味を理解するのが難しいのではないか	小松委員	・「地域の多様な大人」 → 「地域の大人たち」などの表現の方がよいと思う(事務局案) ・「たまご=他孫」は前回提言同様、注釈を入れる
4	2	(2) 「地域学校協働活動」の諸活動	検討	・①協働活動 ②放課後子供教室等の学習活動 ⇒見出しについて、適した表現はないか検討したい	小松委員	分類の妥当性について、検討が必要ではないか
5	6	4 まとめ	検討	中間提言であれば、最終提言に触れる必要があるのでは? 例えば、最後に「今回は、早期実現するため、「モデル校」の設置までを中間の提言とした。今後、その実施経過等を検証しながら、制度の確立の向け必要な提言をしていきたい」と加筆	木下委員	
6	-	中間報告後の議論について	確認	・まとめ部分の具体化 ⇒モデル校での運用イメージ、コーディネーターの選出方法、地域学校協働本部の設置案、学校との連携方法(平準化は難しいと思うので、ここだけは共通で全校に導入したい点等)	事務局	
7	-	中間報告後の議論について	確認	小学校と中学校の「地域学校協働活動」の方向性	河野委員	地域を小学校区と考えるにあたり、小学校と中学校では「地域学校協働活動」の内容(質)に違いが出てくると思われる
8	-	中間報告後の議論について	検討	西東京市の特色として、子ども条例がある。 4のまとめで「地域学校協働活動」の方向性について述べる際は、子どもも主体的に参画できるような案を盛り込みたい	小松委員	
9	1	はじめに	加筆	社会教育の位置づけ(求められる役割など)	事務局	令和元年6月提言の「はじめに」からの2段落は、うまく本提言にも盛り込めたら良いと思います⇒5/12反映済み
10	2	1の本文の4行目	確認	「今年度から完全実施」 → 「今年度から全面実施」	小林委員	⇒5/12反映済み
11	3	(3)の8行目	確認	「社会的結合を意味が」 → 「社会的結合の意味が」	小林委員	⇒5/12反映済み
12	5	(4)の6行目	確認	「強めるとものと」 → 「強めるものと」	小林委員	⇒5/12反映済み
13	2	(3)「地域学校協働活動」に参画する人々	加筆	「地域」の定義を明示した方がよいのではないか	事務局	定例会でも岩崎委員が仰っていたと思います(小学校区?) ⇒5/1送付草案には記載済
14	3	(1)市内小・中学校の「学校と地域」の連携・協力について	その他	学校差については、調査方法も一因である(各項目最大5つまでとしている)	事務局	「調査には記載されていない連携事例もあると思われるが」等、含みを持たせた方が良いと思います⇒5/1送付草案には記載済
15	5	(4)学校	検討	・地域の力を借りて今までできなかった ⇒ 言い切りでない表現の方がよいのではないか ・学校での問題を地域の問題として進めていくことができる ⇒学校で抱える問題も地域の多様な人々の参画により多角的に問題解決に向けて取り組むことができる、程度ではどうか	小松委員	⇒6/18反映済み
16	5	(4)学校	検討	・地域の力を借りて今までできなかった ⇒言い切りでない表現の方がよいのではないか	小松委員	※提言全体として、読み手が理解しやすい表現があれば修正したい ⇒6/18反映済み

その他

- 目次の作成
 注釈部分の確認
 調査表の参考添付
- 誤字・脱字の確認
 表現の統一(子ども、子供等)